「木材の研究と普及」から「ウッディエイジ」への変遷

本誌の表紙，目次そして奥付には「ウッディエイジ」とともに「木材の研究と普及」という文字が表示されています。このような二つの名称を持つに至った経緯をたどってみました。

■「木材の研究と普及」の発行

（一社）北海道林産技術普及協会（以下，普及協会）は，1953年8月に設立総会を開き，その翌月から会誌「木材の研究と普及」を発行しています。2号の編集後記には「内容も，文章も，かたいものとなっておりますが，次第に改めて，読者に親しまれるものにしたいと念じています」[1)]と書かれています。試行錯誤しつつも，技術普及を進めようとする意気込みが感じられます。

■「ウッディエイジ」への変更

長らく「木材の研究と普及」として発行されていましたが，1984年1月号の表紙に「ウッディエイジ」が表示されます。その意図を当時の村上会長は次のように説明されています。「協会誌“木材の研究と普及”は，従前から読みやすく，分かりやすくをモットーに努力してまいりましたが，未だ難解でよく読まれているという状況ではないようです。そこで，新年の今月号から，誌名に副題ともいうべき親しみやすい名称をつけ，表紙のデザインを改め（以下，略）」[2)]。これによると「ウッディエイジ」は「副題」という位置付けのように受け取れます。

一方，国立情報学研究所（NII）が提供している図書・雑誌検索データベース・サービス（CiNii）には「木材の研究と普及」，「ウッディエイジ」は**表**に示すように収録されています[3)]。これは，「木材の研究と普及」は1983年に廃刊となり，その後継誌は「ウッディエイジ」ではなく「ウッディエイジ：木材の研究と普及」であることを示しています。

表紙に「ウッディエイジ」を記載している期間（38年間）が「木材の研究と普及」だけの期間（約30年間）を大きく超えていること，「ウッディエイジ：木材の研究と普及」はタイトルとして少々長いこともあり，今では「ウッディエイジ」が常用の誌名として通用しているように思います。

表　図書・雑誌の検索データベースに見る誌名

誌名	木材の研究と普及	ウッディエイジ：木材の研究と普及
期間	1 号（1953. 9）－31 巻（1983. 12）	32 巻通巻 365 号（1984. 1）－**
NCID*	AN00273430	AN1034326X
タイトル別名	研究と普及	木材の研究と普及 Woody age
補足	31 巻で廃刊	木材の研究と普及の後継誌

*：国立情報学研究所が付与した ID 番号
**：－は，継続中であることを意味する

■「ウッディエイジ」の誌面構成

「ウッディエイジ」の誌面は，普及協会が編集している記事と林産試験場の許諾を得て「林産試だより」から転載している記事とで構成されています。

林産試験場が「林産試だより」を創刊したのは1980年9月になります。創刊の意図を当時の千廣林産試験場長は「“月報”にのせられた研究内容を，分かりやすくお知らせする」[4)]と説明されています。

「林産試だより」が創刊されて3年間ほど，ウッディエイジは「林産試だより」の記事を転載する構成で発行されていましたが，1984年1月号から普及協会が独自に編集する記事が加わるようになります。

「林産試だより」の記事は林産試験場のホームページで検索し，PDFで読むことができます。しかし，そこには普及協会が編集した記事はもちろん掲載されていません。今回，ホームページでの「ウッディエイジ」掲載を1984年1月号からとしたのは，上述のような刊行の経緯および掲載記事の違いを理由としています。

（普及協会・菊地）

■参考資料

1) 木材の研究と普及，1953年10月号（1953）.
2) 村上彦二：新春を迎えて，ウッディエイジ，1984年1月号，p.1A（1984）.
3) https://ci.nii.ac.jp/ncid/AN1034326X.
4) 千廣俊辛：かわり目をむかえた林産試験場，林産試だより,1980年9月号，pp.1-3（1980）.